JFA 第 47 回全日本U-12 サッカー選手権大会

山梨県大会　競技会規則　-10/6 第 3 稿-

1.　競技規則

①　JFA「サッカー競技規則 23／24」及び「8 人制サッカー競技規則」による。

2.　競技会規定

■以下の項目については本大会の規定を定める。

① 競技のフィールド　　「8 人制サッカー競技規則による」。

フィールドの大きさ： 長さ（タッチライン）68m × 幅（ゴールライン）50m（各推奨）

ペナルティーエリア： 12m　ペナルティーマーク： 8m　ペナルティーアークの半径： 7m

ゴールエリア： 4m　センターサークルの半径： 7m（規定）交代ゾーン６ｍ （ハーフウェーラインの中央の仮想ラインから ３ｍずつ）、テクニカルエリアを設置する。

② ボールは検定皮革 4 号球を使用する。

各チームの持ち寄りとする。ただし、準決勝以降は本部で用意する。

③ 競技者の数

(ア) 試合登録人数は 16 名

(イ) 8 人の競技者(うち 1 人はゴールキーパー）が試合に出場する。

(ウ) 交代要員の数：8 名以内とする。

(エ) 交代を行うことができる回数は制限しない、交代して退いた競技者は交代要員となり、再び出場することができる。

(オ) 試合開始時 8 名に満たない場合、試合は行わず 0-3 で敗戦したものとみなす。

(カ) 試合中に怪我等による人数不足により 8 名に満たなくなった場合にはそのまま続行する。

④ ベンチ入りするチーム役員・選手の人数

(ア) ベンチ入りするチーム役員は 2 名以上 3 名以下とし、試合中の指示はテクニカルエリア内から 1 名が立って行う。

(イ) ベンチ入りする監督コーチは全員が D 級以上のライセンスを取得していること。

※2024 年度より C 級ライセンス取得者が 1 名以上いることを基本とする。

(ウ) ベンチ入り選手の人数は 20 名以内とし、8 名の交代要員と他の選手はビブスではっきりと区分できるようにすること。

(エ) ベンチサイドは組み合わせ表番号の小さいチームがピッチに向かって左側とする。

⑤ 審判員

(ア) 1 人の主審と 2 人の副審と第 4 の審判員で行う。

(イ) 1 日目、2 日目の審判はチーム帯同審判員が予め決められた試合を担当する。

(ウ) 主審は 3 級以上の審判員が務めることが望ましい。
(エ) 主審・4 審、副審 2 名の分担は、両チームの協議により変更することも可能とする。
(オ) 大会 3 日目の準々決勝の主審・第 4 審は審判部、副審はチーム帯同審判が担当する。
(カ) 大会 3 日目の準決勝から最終日は全て審判部が担当する。
(キ) 主審はフェアプレー精神あふれる行動やリスペクトある行動をとった競技者に対し積極的にグリーンカード示す。

⑥ <u>競技者の用具・ユニフォーム</u>

(ア) 本競技会に登録した正・副 2 組のユニフォーム（シャツ、ショーツ及びソックス）を試合会場に持参し、いずれかを着用しなければならない。
(イ) 正・副の 2 色については明確に異なる色とする。
(ウ) 審判員は対戦するチームのユニフォームの色彩が類似しており判別しがたいと判断したときは、両チームの立ち会いのもとその試合において着用するユニフォームを決定する。
(エ) 前項の場合、審判員は、両チームの各 2 組のユニフォームのうちから、シャツ、ショーツ及びソックスのそれぞれについて、判別しやすい組み合わせを決定することができる。
(オ) チーム内でのユニフォームのデザイン、ロゴ等が異なっていても、主たる色が同系色であれば着用することができる。
(カ) ゴールキーパーの「ショーツ及びソックス」はフィールドプレーヤーと同系色でも着用することができる。
(キ) ソックスにテープまたはその他の材質のものを貼り付ける、または外部に着用する場合、ソックスと同色でなくても良い。
(ク) アンダーシャツの色は問わない。ただし原則としてチーム内で同色のものを着用する。
(ケ) アンダーショーツおよびタイツの色は問わない。ただし原則としてチーム内で同色のものを着用する。
(コ) ユニフォーム（シャツ・ショーツ・ソックス）については、正の他に副として、正と色彩が異なり判別しやすいユニフォームを参加申込書（WEB 登録の際）に記載し、各試合に必ず携行すること（FP・GK 用共）
(サ) シャツの前面・背面に参加申込の際に登録した選手番号を付けること。ショーツの選手番号についてはつけることが望ましい。
(シ) 選手番号については、参加選手ごとに大会に登録されたものを使用する
(ス) ユニフォームの色、選手番号の参加申し込み後の変更は認めない
(セ) ユニフォームへの広告表示は、日本サッカー協会 第 4 種大会部会が別途定める規定に基づくものでなければならず、日本サッカー協会に承認された場合のみ認められる
(ソ) JFA ユニフォーム規程第 10 条において適用除外を受けた日本プロサッカーリーグ（J リーグ）に所属するクラブの下部組織のチームは、当該クラブのトップチームと同一のユニフォーム広告を掲示することが認められる。但し、アルコール等、未成年チームにふさわしくない広告については除外する

⑦ <u>試合時間</u>

(ア) 試合時間は 40 分（前後半各 20 分）とする。

(イ) ハーフタイムのインターバルは、選手の休息 5 分間を確保する。

(ウ) 規定の試合時間内に勝敗が決しない場合

・大会 1 日目・2 日目の試合は、延長戦を行わずペナルティーキック方式（3 名）により勝利チームを決定する。

・大会 3 日目準々決勝以降は 10 分間（前後半各 5 分）の延長戦を行い、なお決しない場合はペナルティーキック方式（3 名）により勝利チームを決定する。

(エ) 延長戦に入る前のインターバル：原則 5 分間

(オ) ペナルティーキック方式に入る前のインターバル：原則 1 分間

(カ) 新型コロナウイルスの影響により試合中止の場合は、当該チームは不戦（スコアは不要）とし、もう一方のチームが次回戦へ進出する。

(キ) キックオフから直接相手のゴールに入った場合は、相手のゴールキックで再開する。

⑧ <u>交代の手続き</u>

(ア) 交代して退く競技者は、交代ゾーンからフィールドの外に出る。ただし、交代して退くゴールキーパーは、境界線の最も近い地点からフィールドの外に出なければならない。

(イ) 交代要員は、交代ゾーンからフィールドに入り、競技者となる。

(ウ) 交代は、ボールがインプレー中、アウトオブプレー中にかかわらず行うことができる。

(エ) 交代は、主審の承認を得る必要はない。

(オ) ゴールキーパーは事前に主審に通知した上で、試合の停止中に入れ替わることができる。

(カ) 交代で退く競技者が負傷している場合は、主審の承認を得た上でどこからフィールドを離れてもよい。

(キ) 交代カードは使用せずビブスお受け渡しによって行う。

⑨ <u>負傷者の対応</u>

(ア) 主審が認めた場合のみ、最大 2 名ピッチへの入場を許可される。

3. 懲罰

① 警告を 2 回受けた選手は、次の 1 試合に出場できない。

② 退場を命じられた選手は、次の 1 試合に出場できない。審判報告書を使用して次の試合に申し送る。

③ 競技者が退場を命じられた場合は、その競技者のチームは交代要員の中から競技者を補充することができる。主審は競技者が補充されようとしている間は、試合を停止する。

④ 退場を命じられた選手及び警告を 2 回受けた選手は、当該チームエントリー票の「出場停止理由」欄に日付と理由を記載すること。また、「警告」についても同欄に日付と理由を記載し累積がエントリー票で確認できるようすること。

⑤　全国大会と本大会は懲罰規定上の当該競技会とみなし、終了時点で退場・退席による未消化の出場停止処分は全国大会において順次消化することになる。

⑥　ベンチ入り役員の人数及び指導者資格に関し競技会規則に反した場合は 0-3 の敗戦とする。

⑦　退場を命じられたチーム役員は、次の 1 試合はベンチに入ることは出来ない。その後の処置については大会規律委員会で決定する。

⑧　大会期間中警告を 2 回受けたチーム役員は、次の 1 試合はベンチに入ることは出来ない。その後の処置については大会規律委員会で決定する。

⑨　本大会は（公財）日本サッカー協会規約規程「第 12 章 懲罰」に則り、大会規律委員会を設ける。［基本規定 第 227 条］

⑩　大会規律委員長は 4 種委員会委員長とし、委員については委員長が決定する。

４．競技規則の適用誤りについて

①　審判による競技規則適用ミスがあった場合も原則として、当該適用の結果は有効なものとみなされ、試合結果には影響を与えないものとする。なお、再試合は大会運営上および大会/試合に関わる方々の立場、状況など様々な観点から現実的ではないため、審判の決定を最終とする。（JFA 競技規則第 27 条より）

５．その他

①　本競技会規則及び記載事項にない事例に関しては、大会規律委員会にて決定する。